

審議会会議録

会議名称	平成26年度 第2回伊達市社会教育委員会議		
議 題	平成27年度社会教育関係事業計画等		
開催日時	平成27年2月24日（火曜日）13時30から14時45分まで		
場 所	伊達市役所第2庁舎2階第1会議室		
出席者	社会教育委員10名（欠席2名）、市教委9名		
	所管部課名	教育部生涯学習推進課	
公開 非公開 の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

【会議概要】

1. 開 会

2. 挨拶 教育長

3. 議 事

■報告第1号

第34回北海道市町村社会教育委員長等研修参加報告（口頭報告：議長）

平成26年7月7日～8日札幌市かでの2・7で開催、約180名参加。一日目はこころ気研究所所長 鎌田 敏氏による講演、演題「人と人とのつながりをどう広げるか」講演要旨は、コミュニケーションは人と人とのつながりであり、キャッチボールであり共感であるということだった。2日目はグループワークを行った。事例発表等では、社会教育委員自らが独自の活動をする市町等が出現し始めており、主体的活動に驚くことも多かったが、住民の顔が分かる小規模自治体の方が行動しやすい面もあり伊達市以上の規模ではなかなか難しいと思った。

■報告第2号

平成26年度胆振管内社会教育委員連絡協議会表彰式及び研修会兼胆振管内社会教育主事会創立50周年記念事業出席報告（口頭報告：出席委員）

社会教育主事会事業も兼ねていたので、教育主事や自治体職員が多かった。講演とグループワークを行った。講演では社会教育のキーワードは「大人の本気」というフレーズが印象的であった。今後若い人を巻き込むためには、若い層に文句を言わずに任せることと、子どもの行事との連携が大切と話していた。将来の人口減を見据えどう地域の力をつけていくかが最重要課題と話されていた。

（報告1及び2号についての質問等なし）

■報告第3号

平成27年度社会教育関係事業計画について

社会教育係、青少年・体育、文化課、図書館の順で説明

〈意見、質疑・応答〉

〔議長〕

・マイプラン・マイスタディ事業について、先日個人情報の勉強会をした際に利用したが、講師謝礼の半額補助のみで使い勝手が悪いと思った、せめて会場のカルチャーの諸室が無料になるといいなあと感じた。利用者が少ないのはそのせいもあるのではないか。もう少し補助内容を広げる事はできないだろうか。

〔市教委〕

・年度の途中であっても手続きを踏み変更は可能だと思う。活用して欲しいので声があれば、ある程度整理していきたい。

〔A委員〕

・議案の平成27年度予算がすでに概ね決定しているものであれば、会議の議題としてはあまり意味がないのではないか。予算案作成前に意見等聞くのが良いのではないか。

〔市教委〕

・廃止した方がいい事業や、実施継続した方が良い事業など発言の場があった方が良いのは分かるが、そうすると毎年11月頃の予算作業を夏に予算組をしなくてはならないという難しさがある。

〔B委員〕

・前年の会議でも同じような話が出た。次年度に反映は無理でも次の年に実現するということで、昨年アートビレッジについて市民感覚では、予算を使い購入した絵画等を見学できないのはどうなのか、という話が話題になったが、次年度は見たいときに見られるようになるということですよ。

〔市教委〕

・これまでも職員を付ければ鑑賞できないことはなかったが、状況によっては対応できないこともあった。4月以降は対応できる体制になる。

〔C委員〕

・指定管理ということか。

〔市教委〕

・将来的にその方向だが、一年間、委託で試行してデータを蓄積したいと考えている。今までかわりのあるアートビレッジ実行委員会が発展的にNPOとなる予定である。

[A委員]

・社会教育事業は、多岐にわたっているが、その費用対効果とか、ねらいや評価など検証は行っているか。

[市教委]

・毎年、教育振興基本計画に掲げられ、取り組んだ施策や事業について点検・評価を行いヒアリング等するなど行い報告書を作成している。

[A委員]

・在り方として、H26の内容評価を評価者として社会教育委員がやっても良いのではないか。委嘱されているが、なかなか委員として当事者意識を持ちにくい。

[D委員]

・今日、出席して聞いたことにも意味はあるように思う。このような事業をやっているのだと理解し、それを自分の周囲に広く知らしめることも委員の役割のひとつではないかと思う。直接意見が反映されれば、より良いとは思いますが・・・
・話は変わるが、児童生徒文化・スポーツ振興事業補助金6,000千円について伺いたい。伊達中などは、近年サッカーで毎年のように全国大会に行く。そのために部員の母親等が必死で寄附を集めているのを見ると、少なくともサッカーでは全国レベルで伊達市ありの知名度を誇る部なのに、もう少しなんとかならないものかと感じているが、そのあたりの補助は拡大しているのか。

[市教委]

・伊達中サッカー部は今年度、サッカーでは全国大会に行けなかったがフットサルでは初めて全国へ行った。中体連事業補助金はバス代や地区負担金などを対象としている。児童生徒文化・スポーツ振興事業補助金では、基本的に10割補助をしており以前と変わっていません。

[B委員]

・息子が初めて全国大会に行ったときは補助がなかったので大変だったが翌年に制度ができてとても感謝した。確かに旅費以外にも経費はかかるので充実して行って欲しいがまなびの里サッカー場もできるなど施設面では充実していているのでは。

[市教委]

・負担は大きいと思うが、人数的には行くすべての方ではなくあくまでも大会の登録人数としている。

[議長]

・他に意見等ないでしょうか。先ほど話に出たが、社会教育委員の在り方については悩んできたところでもある。みなさん、案内をもらっていると思うが成人式などに出たことがありますか。今年の成人式はダンスパフォーマンスがあつたりで感動的だったし、伊達の成人式は素晴らしいと感じる。

最近では芸術文化スポーツの表彰式もあった。このように小さなことかもしれないが、現状を知るために事業に参加するなど行動することも社会教育委員としての仕事のひとつではないかなと感じている。そういうところからやってみませんか。

[B委員]

・会議に出る以外にも我々が目となり足となり、それを地域に広めることも良いのではないかと思う。

[C委員]

・以前は会議が年3回くらいあり、仕事との調整が難しかったが、今は調整できるようになってきた。大滝との合併の際にもいろいろ調整会議が多かったと記憶している。

[E委員]

・会議の日程をかなり早めに知らせてもらえばより日程調整が付きやすい。
(1ヶ月半～2か月前)

[議長]

・分野別に部会をつくり、事業に参加したり手伝ったりしている自治体とかもあるようだ。
現任期では今回が最後の社会教育委員の会議となる、お疲れさまでした。

閉会